



工事の安全を願って 大石田小学校建築工事安全祈願祭

統合小学校(大石田小学校)建築工事の安全祈願祭が、6月23日(月)に大石田小学校建設予定地で行われました。

これは、受注者である市村工務店・千歳建設特定建設工事共同企業体、株式会社タカハシ電工、黒澤建設工業株式会社の3者で開催されたものです。

当日は、神職による祝詞奏上の後、関係者による玉串奉納が行われ、地域の子もたちの未来を育む新たな学び舎の建設と地域のさらなる発展を願いました。今後、建築工事は、令和9年度開校を目指し、進められます。



歯の健康を守るため 6年生による歯科指導

大石田小学校の6年生による歯科指導が、6月24日(火)に大石田小学校で行われました。

これは、吾妻歯科クリニックの協力により、実施されました。初回は、歯科衛生士の方々による歯の健康を守るための講話を聞き、6年生が自分たちでテーマを決めて、スライドを作成し、調べた内容を発表しました。当日は、クイズ形式で、歯医者の使い方、むし歯について、よく噛むことなどのテーマで発表し、発表した西尾楠奈さんは「むし歯について発表しましたが、調べてみて、もっと歯を大事にしていきたいと思いました」と話していました。



大石田かるたの名所を 小学生が町巡り

町内3校の3年生による町巡りが6月16日(月)に町内一円でわれ、児童48人が参加しました。

これは、町内3小学校の児童と一緒に学ぶ「サンサスタディ」の一環で、事前に「大石田かるた」の中から行ってみたい、もっと知りたい場所を選び、当日はグループに分かれ、実際に現地を巡りました。各スポットでは、有識者からかるたの由来や歴史についての話を聞き、子どもたちは、大石田かるたで詠まれたふるさとの名所の歴史と文化を学んでいました。

皆さん、こんにちは！今年も短く暑い、スイカが美味しい大石田の夏がやってきました。熱中症には気を付けてお過ごしいただければと思います。

さて、皆さんは宮川船夫(ふなお)さんという方をご存じでしょうか。明治23年(1890年)大石田町横山で生まれた外交官です。外国語学校でロシア語を学び、激動の時代に日本とソ連との間に立ち、戦争を回避しようと粘り強い交渉を重ねた人物です。

高等文官試験を通らないノンキャリアでありながら、日ソ基本条約や中立条約などに深く関わり、国の未来のために尽力しました。その後、終戦直後にソ連軍に拘束され、モスクワの監獄で命を落とすという壮絶な最期を遂げ、家族にその死が知らされたのは死から7年後だったそうです。

長年、その功績は表に出ることはありませんでしたが、近年になって

……町長コラム……
『次世代へ虹をかける』
『宮川船夫さんについて』
vol.19



ようやく再評価され、日本と世界の平和に貢献した外交官として、先月には「消された外交官 宮川船夫」という本が出版され、山形新聞でも紹介されました。(町の図書館でも借りられます。)

正直、大変失礼ながら私自身も本を読むまで宮川さんについて存じ上げませんでした。大石田町出身で国を背負い、平和のために尽力された方がおられたことは大きな誇りです。今を生きる私たちにも、「平和をつくる努力を続けること」、「争いをなくし、人と人をつなぐ努力を惜しまない」という姿勢は大切なお手本になります。

これからの未来を担う大石田の子どもたちが、宮川さんのように世界と向き合い、広い視野で物事を考えられる人材へと育っていきけるような教育と環境づくりに取り組んでいければと思います。

大石田町長 庄司 中



小学校で民謡を 大石田町民謡研究会が指導

大石田町民謡研究会の会員が大石田小学校の3・4年生に「最上川舟唄」を教えました。

同団体は、伝統の最上川舟唄を次世代につなげていくため、活動しており、今回が初めての試みとなりました。

これは、9月に行われる学習発表会において、子どもたちが伝統芸能である最上川舟唄を披露するため、開催されたものです。

参加した児童は、「はじめて唄ったけど、声の出し方がとても難しかった」と話していました。

今後学校では、本番に向け、練習を重ねていきます。



犯罪のない明るい社会を 目指して

社会を明るくする運動内閣総理大臣メッセージ伝達式が7月1日(火)に虹のプラザプロムナードで行われました。社会を明るくする運動は、犯罪を犯した人の立ち直りを地域で支え、犯罪や非行のない社会を築こうというもので、毎年7月は強調月間になっています。

この日は、最初に町保護司会と町更生保護女性会の代表4人から庄司町長にメッセージの伝達が行われ、その後、町保護司会(高橋慎一会長)や町更生保護女性会(遠藤和子会長)のメンバーが地域社会の協力を呼びかけ、町内を回りました。